

石炭火力プロジェクト

1. エネルギー省からの聞き取り

2013年5月に開催された TICAD V に参加したゲブザ大統領は、日本の石炭火力・クリーンコール技術を視察され、大変興味を持たれたとのことである。そのため、水力、送電線、ガス火力、石炭火力の候補案件の中では、日本の石炭火力に一番の関心がある。日本企業とモザンビーク企業との石炭火力 JV 案件や官民連携プロジェクトは、政府内でも期待されている。一方で、既に計画されている石炭火力案件は、IPP による民間主導案件であるため、モ国政府が技術の選択をすることはできないが、モ国政府としては、石炭火力の環境基準や技術基準において、日本の石炭火力技術に基づいた規制を課すことも検討される。石炭火力発電 IPP と日本企業との交渉を促すことも重要である。モ国エネルギーセクターにおいては、水力、ガス火力、石炭火力の発電のポテンシャルは大きいものの、送電線整備と資金計画がネックとなり、事業が遅延している。そのため、日本からのファイナンス面での支援にも、期待がある。

2. 石炭火力案件概要

モザンビークにおける石炭火力計画は、下表の通りである。

	発電所名	プロジェクト地域	設備容量	実施機関	総投資額
1	Moatize	テテ州モアティゼ郡の VALE 炭鉱からの山元発電	Phase 1: 300MW (50MW を EDM、残りの 250MW を VALE に売電) Phase 2: 300MW	ACWA Power Moatize Termoelectrica (IPP)	USD 10 億ドル (Phase 1)
2	Benga	テテ州モアティゼ郡 Rio Tinto 炭鉱からの山元発電	Phase 1: 250MW (EDM に 50MW を売電) Phase 2: 300MW	IPP (Rio Tinto, EDM)	-
3	Ncondezi	テテ州 Ncondezi 炭鉱からの山元発電	Phase 1 : 300MW (EDM に 250MW を売電)	IPP (Ncondezi)	-
4	Chirodzi	テテ州 Jindal の Chirodzi 炭鉱からの山元発電	175MW (EDM には 10MW)	Jindal	-

出典：Master Plan Update Project (EDM, 2013)、聞き取り調査等

1) Moatize 石炭火力発電計画

ブラジルの鉱山会社 VALE を中心とした ACWA Power Moatize Termoelectrica 社は、VALE、ACWA Power (Saudi Arabia)、三井物産、Whatana Investimento (モザンビーク)、EDM からなり、モアティゼ石炭火力発電事業を運営する民間発電会社 (IPP) である。2014年2月、モザンビーク政府は、モアティゼ石炭火力発電計画を承認しており、現在は、資金計画等について検討されている。コンセッション期間は、25年である。Phase 1 では、EDM に 50MW、炭鉱の電源に 30MW、残りの発電は、VALE による使用が保証されている。Phase 2 では、テテ州からマプト首都圏までの送電線を通して、南アフリカへ電力を輸出することが計画されている。Phase 1 では、300MW × 1 基の石炭火力発電所を計画している。

石炭火力技術を有する日本の企業が、調達に参加する可能性は大いにあり、IPPの主たるアクターである VALE とコンタクトを取ることが勧められる。

2) Benga 石炭火力発電所

オーストラリアの鉱山会社 Rio Tinto の炭鉱から 250MW を発電する IPP 事業である。F/S は実施済みであるが、Rio Tinto は、IPP の事業パートナーを捜しているとの情報がある。IPP のコンソーシアムが形成されていないため、日本企業は、Rio Tinto とのパートナーとして、株式所有（シェア）に参加して、受注の可能性を高めることは大いに可能性がある。

3. 情報収集インタビュー先

組織	氏名	役職	連絡先
エネルギー省電力 エネルギー局	Benedito Diogo Chembeze	Deputy Director	Tel: +258 – 21 357600 E-mail: bdc@me.gov.mz
EDM 電力局 (8/1 予定)	Ildo Domingos	Director	Tel: 21- 481515 E-mail: ildo.rufino@edm.co.mz